予防鍼灸研究会（SGPAM）

第 13 回定例会抄録

テーマ：『気』と『易経』の世界

2023 年 3 月 26 日

目次

ワクチン接種の副反応と思われる症例への鍼灸アプローチ ..... 豊田 典正　2
神経難病に対する井穴灸の試み ..... 岩﨑 真樹　3
量子：気の考察 ..... 湯浅 龍彦　4
東洋医学の源流『易経』の世界 ..... 内原拓宗　5

ワクチン接種の副反応と思われる症例への鍼灸アプローチ

帯広杏林堂　豊田 典正

「抄録」 目的：COVID-19 ワクチンの副反応と思われる症例について、鍼灸治療を経験したのでその時の脈証と治療について報告する。
症例：79 歳女性、ワクチン接種翌日から全身倦怠感と筋肉痛、特に後頸部から肩背部にかけての痛み（特に起居時）がひどい。頸部の運動障害強度。頭痛、胸苦しさも有り。整形外科を受診しているが、副反応との因果関係は指摘されていない。
治療・経過：週に１度通院されている患者である。六部定位脈診により、肝・心包の虚と判断したが、通常とは違う珍しい脈証を呈していた。全般的に陽部が強く緊張感を持っていたが、実脈と言うより陰虚により陽が動じていると捉え、陽経を瀉さずに陰経の補法を主体とした。普通、陰虚の強いときに見られる脈証である。鍼灸労作後倦怠感に注意しながら、ディスポーザブル鍼にて虚している経絡を補うため、行間 LR２、曲泉 R8、郄門 PC4、大陵 PC7 に１～５mm 程度刺入、上背部の顕著な圧痛部位（天柱 BL10、神道 GV11、膈兪 BL46）に１５分置鍼、抜鍼後、半米粒大もぐさにて５～７壮透熱灸（膻中 V17、曲池 LI11）。３診目から一気に改善し、２週間程度にて軽快した。
結論：COVID-19 ワクチンの副反応に対して有効であった。脈状は陽動の脈を呈しており中脈が安定しており、謂真気が充実していたからこその症状軽減と思われる。
（本文 569 字）

神経難病に対する井穴灸の試み

鎌ヶ谷総合病院　岩﨑 真樹

「抄録」はじめに：前回の定例会にて一ノ瀬は、井穴灸を実演した。
目的：今回、パーキンソン病(PD)と脊髄小脳変性症（SCD)の患者に井穴灸を施療したので、結果を動画で供覧する。
対象と方法：鎌ヶ谷総合病院脳神経内科を受診し、説明し同意の得られた PD と SCD 患者に井穴灸を施療し、回内回外運動(dyadochokinesis)を動画に収めて主観的に判定した。
内訳：症例①70 代男性。PD12 年目、ヤール度 4。症例②80 代男性。PD15 年目、ヤール度 4。症例③30 代男性。SCD6 年目。症例④60 代女性。SCD6 年目。
方法：両手の指全ての井穴に半米粒大、2 分はさみ消しの知熱灸 1 壮を実施、前後で動画を撮影し、回内回外運動のスピードを目視判定した。
結果と考察：疾患の如何に関わらず、全員の回内回外運動のスピードが改善した。 脳外科医の Wilder G. Penfield は、それぞれの脳の部位に対応する身体図をマッピングした。手の領域が 1/3 であり、手を刺激することにより脳の広範部位が賦活される。他方、井穴は全身の経絡の終起点となり、頭の百会において経絡が交差する。井穴灸は「気」を整え、脳のネットワークを賦活すると考えられた。
結論：今後、神経内科医と鍼灸師の共同研究が期待される。
（本文 538 字）

量子：気の考察

鎌ヶ谷総合病院 脳神経内科　湯浅 龍彦

「抄録」はじめに：インド哲学者中村元は、人の構成要素を「五蘊＋α」と称した。即ち、人間は、こころの働きの 4 要素（ナーマ）に身体（ルーパ）を加えた五蘊とそれを取り囲む非我より成ると。一方、気学の先哲湯浅泰雄は、「気とはこころと身体の働きを結ぶもの」と述べた。

目的と方法:「気」とは何か、まず実体験的な話しから説き起こし、次いで、近年注目される「量子」の振舞から「気」の実態を推論し、「気」に介在する鍼灸の意義に迫る。

結果と考察：（1）様々な「気」の実体験：気功、正眼の構え、呼気鍛錬、丹田と井穴、造形、曼荼羅、共感とミラーニューロンに「気」の働きを見た。（2）近年注目される量子の振る舞い（粒子であり、波動である）の中に「気」の本質が見える。中村のいう非我とは宇宙と身体に介在する量子であり「気」そのものである。人体は皮膚を介して内的恒常性を維持するエネルギー体系である。鍼灸は、まず身体の内と外を結ぶ技能であると共に、内部の恒常性維持の為に張り巡らされたネットワークシステムを管理する。脳は他の五臓に比して抜きんでて、ネットワークが発達したエネルギー器官である。こころとはその脳の機能的な側面を表わす。

結論：「気」とは身体のみならず宇宙を支配するエネルギー体系である。鍼灸は身体内外の「気」を結ぶ。量子という考えに至って、ここに過去長く形而上学に甘んじて来た鍼灸の意義が明確になった。易経の意義もより鮮明に理解される時代になったということである。（本文 655 文字）

東洋医学の源流『易経』の世界

関東鍼灸専門学校　副校長　内原拓宗

「抄録」　『易経（周易）』が成立したのは、東洋医学（古代中国医学）の原典とされる『素問』、『霊枢』や『傷寒雑病論』が成立した漢代よりさらに 1000 年近く遡ると言われています。このような歴史的時代背景を考えると、『易経（周易）』は東洋医学の原典を編纂した編集者達にとって、踏まえておくべき「常識」として存在していたのではないか、と考えることができます。そのような観点から、関東鍼灸専門学校では「易」を東洋医学の専門家たる鍼灸師にとって重要な教育内容として扱っています。今回の講演では「東洋医学の源流『易経』の世界」と題しまして、この古くて新しい「易」の世界をご紹介させて頂きたいと考えております。

主な内容として以下を予定しています。

・「易」の成立と時代背景
・日本に伝わった「易」のその後
・易の基本的な考え方（太極－陰陽－四象－八卦）
・易の六十四卦
・易と東洋医学

特に「易」が持つ世界観や考え方が、「疾病予防」にどのようにリンクしていくかに焦点を当てながらお話させて頂きたいと思います。

（本文 435 文字）